

牙蜜餅



深江と

菅細工

昔、深江は良質の菅草が豊かに自生する浪速の一島であった。第十一代垂仁天皇の御代に大和の国の笠縫邑より、笠縫一族が深江の地に移住し、代々、菅笠を作るようになった。そのため、当時の深江は、笠縫島と呼ばれていた。

菅笠のことは、万葉集などの歌集に記されている。

押し照る浪速菅笠置き古し

後には誰が着ん 笠ならなくに

(万葉集卷十一・二八一九)

縫いたつる 心深江の菅小笠

あめの下にぞ 名はみちにける

(千種中納言)

江戸時代になると、伊勢参りに赴く人が、道中安全を願って深江で菅笠を買い求め、菅笠の需要は盛んになった。

菅細工は、もともと野良仕事の合間や農閑期となる冬場に女性がする仕事であった。

現在、菅細工の技術は、深江菅細工保存会によって受け継がれている。主な製品は、菅笠・色紙掛け・茶道に関わる円座・釜敷きなどである。

また、深江では今でも、歴代天皇即位・大嘗祭の御管蓋や、伊勢神宮の式年遷宮の御料管御笠・御駮を献納している。

大阪市指定無形文化財第一号

深江菅細工保存会

一九八八 深江菅細工保存会発足

一九九〇 平成大嘗祭御管蓋奉製に従事

一九九三 第六一回伊勢神宮式年遷宮御料管御笠・御駮奉製に従事

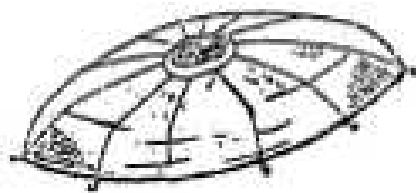
一九九九 大阪市指定無形文化財第一号の認定を受ける

二〇一一 伝統文化ポータル賞地域賞受賞

二〇一三 第六二回伊勢神宮式年遷宮御料管御笠・御駮奉製に従事

神宮参予・同評議委員会より顕彰状拝受

二〇一六 大阪府伝統工芸品に指定



深江菅細工保存会

大阪市東成区深江南3丁目5の17

電話 大阪(06)6971-9964

<http://www.fukae-suge-zaiku.jp/>

深江菅細工保存会

検索

